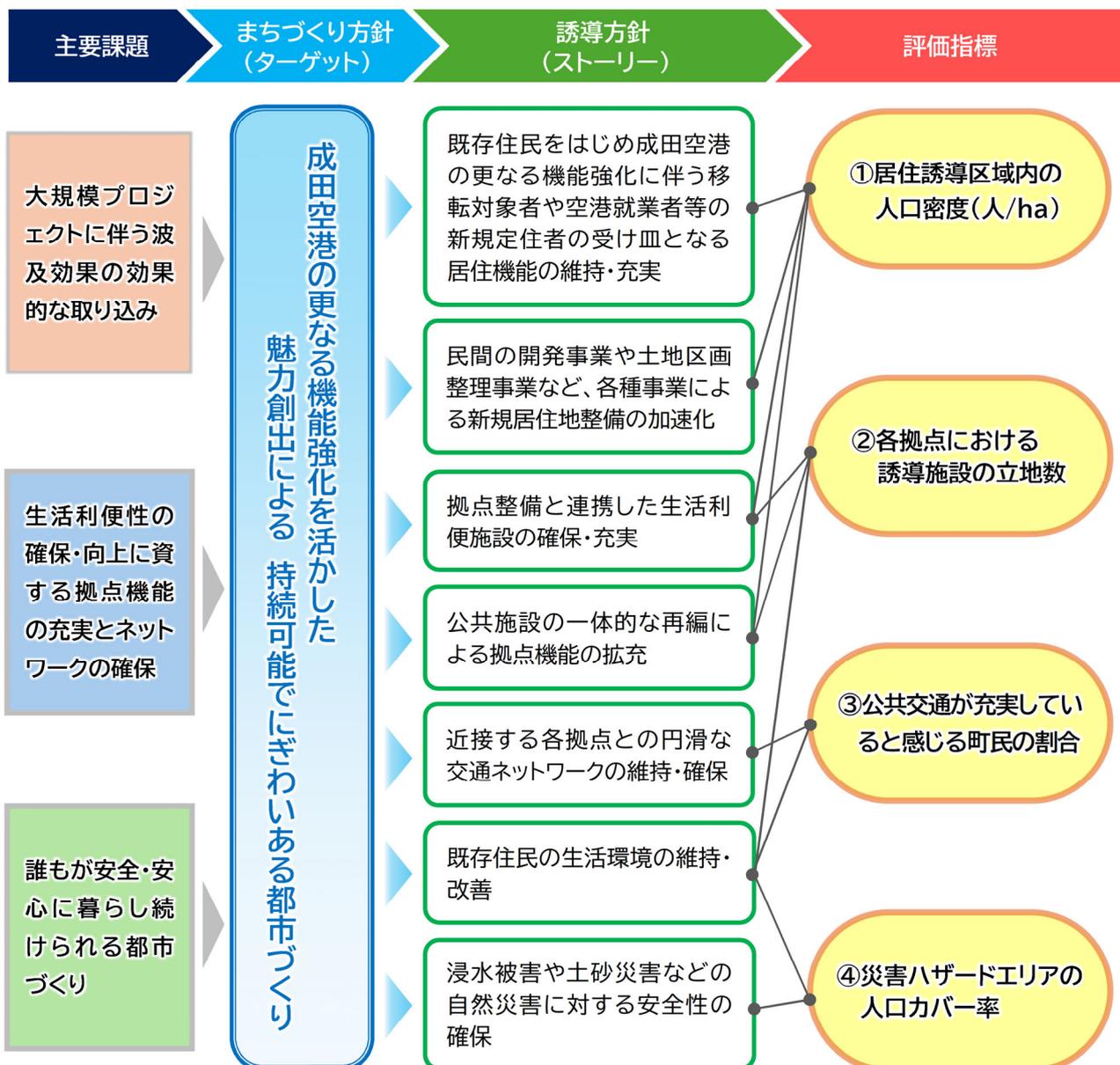


(1) 評価指標の考え方

- 本計画が実効性を持ち適切に運用されているか継続的に確認していくためには、課題解決のための施策・誘導方針(ストーリー)によって、目指す目標及び目標達成により期待される効果を定量化することが重要です。
- 本計画では、本町が目指すまちづくりの実現の進捗状況や実施する施策の効果を評価するため、主要課題及びまちづくりの方針(ターゲット)を踏まえた誘導方針(ストーリー)と対応した評価指標を設定します。

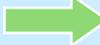
■ 主要課題を踏まえた誘導方針に基づく評価指標



(2) 目標の設定

- 評価指標の目標は、本計画の目標年である2040年を見据えながら、計画策定から5年後の2030年を中間年次として二段階に分けて設定します。
- 中間目標については、本計画の次回見直し時に進捗確認を行うことを目的に参考として設定するものです。継続的な計画の進行管理と必要に応じた見直しによる、実効性の高い計画運用に取り組みます。

■ 評価指標の把握方法と目標

評価指標	把握方法	現況 (最新)	[参考] 中間目標 (2030年)	目標 (2040年)
①居住誘導区域内の人口密度(人/ha)	居住誘導区域に含まれる250mメッシュ人口密度	12人/ha (令和2年国勢調査)	 増加を目指す	20人/ha ^{※1}
②各拠点における誘導施設(同等の機能を有する施設も含む)の立地数	各拠点で設定した誘導施設(同等の機能を有する施設も含む)の施設数	[小池地区] 13件 ^{※2} (令和7年2月時点)	[小池地区]  維持を目指す	[小池地区] 15件
		[千代田地区] 0件 (令和7年2月時点)	千代田地区は、将来的に土地区画整理事業等による一体的な市街地整備を想定していますが、現段階では具体化していないため、 計画が具体化した段階で内容に即した目標を設定するものとし、今回は目標を設定しないこととします。	
③公共交通が充実していると感じる町民の割合	町民意識調査	6.3% (令和6年5月)	 増加を目指す	17% ^{※3}
④災害ハザードエリアの人口カバー率	総人口に対する災害ハザードエリアに含まれる250mメッシュ人口の割合 ^{※4}	40.0% (令和2年国勢調査)	 減少を目指す	25% ^{※4}

※1 人口密度の目標は、宅地開発プロジェクトによる人口移動を反映した芝山町の将来推計人口(27, 28頁参照)から算出しています。また、参考指標として「居住誘導区域外の人口密度」についても把握し、郊外部で本町が目指すまちづくりの方向性にそぐわないような宅地開発等が発生していないかを、届出制度の運用と合わせて検証していきます。

※2 ①芝山町役場、②芝山町保健センター、③医院、④クリニック、⑤第一保育所、⑥芝山町子育て支援センター、⑦芝山小学校、⑧道の駅風和里しばやま、⑨ドラッグストア、⑩銀行、⑪芝山郵便局、⑫芝山文化センター、⑬芝山町中央公民館

※3 令和6年5月に実施した町民意識調査の「公共交通が充実しているか」との設問に対し、「どちらともいえない」と回答した割合(20.4%)のうち半数が「そう思う・ややそう思う」に転じることを目指して設定しています。

※4 本町では今後も郊外部の人口減少が見込まれることから、当該指標についてはこのまま減少していく可能性もありますが、より安全性の高い居住誘導区域内に新たな市街地整備等を進め、その中での定住促進を進めていくことで、町全体の人口を確保しながら、災害ハザードエリアに居住する住民の割合をより一層低減させていくことを目指します。

(3) 計画の評価・見直し

- 立地適正化計画は、概ね5年ごとに施策の進捗状況について調査、分析及び評価を行い、見直しを行うことが望ましいとされています。
- 本町においても、概ね5年を目途に計画の評価・見直しを行うこととし、計画(Plan)を、実行に移し(Do)、その効果を評価・点検し(Check)、必要に応じて改善し(Action)、更に次の計画(Plan)へと繋げていく PDCA サイクルによる計画の進行管理と改善に取り組みます。
- なお、概ね5年ごとの定期的な評価・見直し以外にも、成田空港の更なる機能強化や圏央道の開通に伴う事業の進捗など、本町を取り巻く社会経済情勢に大きな変化が生じた場合は、必要に応じて柔軟な見直しを行うこととします。

■ PDCA サイクルのイメージ

